

震災復興期における観光の役割についての事例研究

三浦 知子 人間社会学部 国際観光学科

The Case Study on the Role of Tourism through Reconstruction

After the Great East Japan Earthquake

MIURA Tomoko

Department of International Tourism, Faculty of Human and Social Studies

The Great East Japan Earthquake brought serious damage to Tohoku district. There are still various agendas in the stricken area. The purpose of this study is to investigate how tourism supports the reconstruction through the case of school excursion, location site tour, and debate involving earthquake disaster ruins. One of the important role of the tourism is to create a meaningful interaction and communication between people in the disaster area and tourists.

Keyword : *Tourism to disaster area, Reconstruction assistance, Interaction, Disaster ruins*

2011 年 3 月 11 日に起こった東日本大震災は、東北地方に甚大な被害をもたらした。震災からまもなく 3 年が経過するが、現在もさまざまな課題が残る。こうした中で被災地にはさまざまな観光が進められている。本研究報告では長崎県の高校生の修学旅行の感想、テレビ番組のヒットによる被災地観光、震災遺構をめぐる議論をもとに、「観光」の役割について考察した。観光は地域と他地域の人との交流を生み出し、当該地域を他の地域に「伝える」役割を持っている。直接的な経済効果も期待できる。ある種のとまどいや後ろめたさを超えた、より積極的な観光を進めていく意義がここにある。合わせて被災地の今を知り、震災遺構や復興計画について協働して取組むことも、復興支援の一助となり得る。

キーワード：被災地観光、復興支援、交流活動、「伝えること」の重要性、震災遺構

1. 「観光」の役割、「観光」に対する誤解

観光産業や観光地は、自然災害によって物理的被害に加えて風評被害の影響を受ける。一方で、観光を通して生まれる人と人のネットワークや信頼関係、直接的な経済的効果は被災地にとって大きな支援ともなる。本研究報告では、東日本大震災被災地における観光にかかわる3つの事例をもとに、観光が果たす役割について考察する。

「観光」が意味するものは、時代とともに変化している。かつては物見遊山的な意味合いが強く、現在でも「観光」はそう想起されやすい。一方で、「異日常」をたのしむ観光、交流をたのしむ観光、体験型の観光といった志向が高まっている。2003 年の観光立国宣言もあいまって、観光は地方における活性化方策、主力な産業としても期待が高まっている。

2. 2012 年に実施された、長崎西高等学校の修学旅行に参加した生徒の感想文集

長崎県立長崎西高等学校は、日中関係の悪化により中国から国内へと修学旅行の行先が

変更となり、2012年12月3日（月）～6日（木）に実施された。行程は、1日目に空路で長崎から羽田、バスで岩手県に移動、2日目に被災地訪問、3日に世界遺産である中尊寺と日光東照宮を訪問して東京へ移動、4日目に東京周辺観光後、長崎に戻るといったものだった。

参加した生徒の「修学旅行感想文集」が、当校のwebサイト上に公開されている。被災地での体験は1日だったが、感想文集に掲載されている計33人の生徒は被災地の様子やボランティア活動、感じたことにその紙面の多くを

割いている。代表的な項目を抽出し、その記載内容を含む件数を数えたものが表1である。修学旅行という特殊な観光形態ではあるが、観光体験による直接的な影響を見て取ることができる。

表1

記載内容	件数
1. 復興が実現されていない	22
2. 百聞は一見にしかず	18
3. 被災地を忘れず、伝えたい	17
4. 被災地観光へのとまどい	5
5. 長崎の原爆体験	4

出典：参考資料1)より筆者作成

3. NHK テレビ小説『あまちゃん』のヒットに見られた被災地人気

NHK 連続テレビ小説『あまちゃん』は、2013 年度上半期に放送された。舞台となった岩手県久慈市は、この地域の資源を新たに「観光資源」として再構築し、観光振興に活用している。岩手経済研究所は県経済への波及効果が 2013 年度で約 33 億円との試算を発表しており、県や久慈市もこうした人気が一過性にならないよう模索している。この現象の1つの特徴として「徹底的な明るさ」が指摘できる。ロケ地ツアー、聖地巡礼ツアーに類似した観光行動を誘発し、久慈市の観光宣伝手法にもその影響をみることができる。

4. 震災遺構をめぐる議論についての現状

被災地の復興計画が策定され、中長期にわたる事業が進められる中、震災遺構保存／解体をめぐる議論も起こっている。遺構は震災の惨禍を語り継ぎ、自然災害に対する危機意識や防災意識を醸成する上で意義があるほか、将来的にも重要な観光資源となりうる。復興庁も昨年震災遺構の保存に向けた支援の方針を示している。震災遺構については、さまざまな解釈が存在し、10年20年先を見据え、日本全体で議論を深めていく必要がある。

5. 被災地における観光の役割

3つの事例から「観光」には、1) 人と人の交流の創発、2) 訪問地域に対する直接の体験、3) 「情報」による観光の誘発と観光による体験を他地域で「伝える」という役割を示すことができ、被災地における積極的な観光を進めていく意義といえる。また交流により被災地の今を知り、震災遺構や復興計画について一緒に考えることも、復興支援の一助といえる。こうした観光の根底には、「たのしむ」こともまた重要な要件となる。

(参考文献・参考資料)

- 1)平成24年度第2学年修学旅行感想文集 <http://www.nagasaki-nishi.ed.jp/uploads/photos/H24syuugakukansou.pdf>
- 2)佐野浩祥・清野隆(2012)：南三陸町の防災対策庁舎の保存に関する一考察、第27回日本観光研究学会全国大会学術論文集、pp.293-296